

事業所名

グループホームじーちゃん、ばーちゃんのお家

(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付

平成17年 3月25日

評価機関名

㈱東京リーガルマインド

(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員

A:現職生活指導員

資格・経験介護支援専門員、ホームヘルパー2級、社会福祉主事、訪問介護員

B:現職元介護療養型病棟看護師

資格・経験看護師(8年)、介護支援専門員

自主評価結果を見る

(事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る

(評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など

(記述)

○入居者の基本的人権に特に留意し、安心して家庭的な毎日が共に楽しめるようスタッフ一同明るい笑顔で接している。

○建物のバリアフリーが徹底されると同時にリビングには総ガラス張りのパテオ的空間がある。そこから雨や雪が室内より眺められ、季節を身近に感じられることで認知症の症状緩和に役立っている。

○車で3分の近くに協力医療機関である医院での往診や入院の受入れが可能であり、歯科の往診も同様でしっかりした医療支援の体制が整えられている。

○スケジュールに縛られない自由な生活を通して個々の主体性を尊重し、それまでの生活スタイルに近い状況の中で残し、持っている能力を精一杯使ってもらよう働きかけをしている。

○2ユニットは各々の個性があり特長がよく生かされている。また共同体制も整っていてよりホーム生活を豊かにしている。

○津山駅より徒歩10分と交通の便の良い閑静な住宅地にあり、150坪程の畑や山にも隣接している。人のふれあいと自然の双方が楽しめる場所である。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

家族会の結成により、家族の要望・状況を統計的に把握することもできて、より本人・家族の気持ちに沿った支援ができると思います。またホーム誌を発行し定期的にホームの生活を伝えるならば、「じーちゃん、ばーちゃん」の家に行こうと、家族や地域の訪問も増え、認知症の啓発にもなるでしょう。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述) ○人間の幸せな生活を支える基本は安心と思いやりの心と考え、家庭的な温かさのあるホームを目指している。 ○積極的に外出することや土地作り（配合等）から始める菜園での作業、大きな庭で焼肉パーティを開くなどすることで近所の人が気軽に遊びに来てくれるようにしている。町内会とのかかわりを深めて地域の輪の中に溶け込む努力がなされている。 ○月1回は日々の状況や暮らしぶりを個人個人の便り(報告)として送り、家族との絆をより太く保てるよう心掛けている。 ○入居者が子どもとのふれあいの中で情緒が安定するよう、また子供にはーちゃん・おばーちゃんと触れ合うことで優しさや社会性の育みになるようにと、双方向の向上を目指して近くの幼稚園・保育園と交流が計画され、話し合われている。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居居の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述) ○スタッフ自信が落ち着いて話すことに気を配り（声のトーンや強弱、メリハリをつける）、言葉かけをしている。 ○ホームユニットごとに緑と黄色のテーマ色があり、カーテンやトブライトの壁、ソファーなど統一されており、落ち着いた雰囲気の家となっている。 ○室内でも自然が楽しめる空間やタタミのコーナーもあり、入居者個々にくつろぎやすい場所が設定されている。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議		○
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のベースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人のできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) ○畑の名人と呼ばれる方、短歌をつくる先生、バスマットやぞうきんの手縫いをする裁縫の得意な方など一人ひとりの得意分野を発揮できる場を設けている。 ○個人の記録は整備されてきちんと保管されている。 ○庭は広く一人でプライバシーを保って散策ができ、スタッフも邪魔しないように見守っている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元		○
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) ○安心できる楽しい家庭的なホーム運営を目指して、職員採用時にはよく説明し、基本的人権に立脚した高齢者尊重の考えを常に事業主はスタッフに話して、人間性重視のサービス向上に努力している。 ○安全を第一に考える、小さなことも見逃さない、気になることは話し合う、事業主に報告するなど、事故・トラブルを未然に防ぐ心掛けが徹底している。 ○事業主・管理者は職員からの希望・アイデア・気づき等を積極的に取り入れて介護サービス向上につながるよう努力している。		